

酵素風呂のお店の開業を支援して 長くお付き合いしていきたい

合同会社 菊地酵素

代表社員 菊地 夏果さん 菊地 秀禎さん

自分で事業をやりたいという夢を叶え
酵素風呂の開業支援会社を設立



2007年に祖師ヶ谷大蔵でオープンした「酵素ラボ」では、発酵米ぬかを入れた浴槽に衣服を脱いで約15分、横になる酵素風呂の温熱療法を提供しています。菊地夏果さんが個人事業主として営業し、さらに酵素風呂のお店を開業したいという人の支援も行っていました。しかし、店舗の運営と開業支援の両立が難しく、どちらも中途半端になってしまい、伸び悩んでいたそうです。そんな夏果さんの仕事を手伝おうと考えたのが夫の秀禎さん。「私は長年、飲料メーカーの会社員で営業をしていましたが、かねてから自分で事業をやりたいと考えており、早期退職を決意。酵素ラボの開業支援部門の会社『菊地酵素』を2021年に立ち上げました」。「菊地酵素」では、酵素風呂のお店を開業したいという個人や法人に対して、物件探しから原料の米ぬかの供給、オープン後の店舗運営、酵素風呂の品質管理のアドバイスまで、トータル的にサポートする新ビジネスを展開しています。

酵素風呂のお店を開業するには、夏果さんが手入れをした発酵米ぬかを譲り受け、3日間の研修を受けます。「おばあちゃんのぬか床を分けてもらうようなイメージですね。酵素風呂の源資となる米ぬかは生き物なので、正しい手入れをすることで温熱療法のための熱を半永久的に出してくれます」と夏果さん。特別なスキルや資格は必要なく、誰でも独立開業できるのが魅力です。

秀禎さんが営業職の経験を活かしてパンフレットやウェブサイトの作成、お客様対応や契約関係を担当したことで、夏果さんは酵素風呂の手入れや開業希望者への研修などに集中できるようになりました。その結果、開業支援の契約件数が伸びているそう。秀禎さんは、お客様に自分の言葉で酵素風呂の説明ができるよう、酵素や民間療法の勉強をただでなく、全体の施術も身につけて、現在は酵素ラボのお客様に入浴後の整体を行っています。



個人のお店でも長く続けてもらえるよう
万全のアフターフォローを惜しまない

菊地酵素の開業支援は、20代の女性が自宅やビルの一室で浴槽1つで起業したり、スポーツジムやエステサロン、旅館、カフェ、治療院などで併設されたり、企業が健康ビジネスの新業態として始めたり、福祉施設へ導入したり、さまざまな業務形態で展開されています。開業実績は国内外に50店舗以上。「地方の古民家を再生した健康施設もあり、単なる創業支援にとどまらず、結果的に地域の活性化につながっていると思います」と秀禎さん。

特に東京都内で開業する場合、保健所から指導を受けやすいのが臭いの問題。菊地酵素は米ぬか100%で酵素菌や薬剤をブレンドしないため、酢酸の気化によって発酵臭が出ます。「私の世田谷の店は住宅街で、臭い対策に苦労しました。そんなあるとき、天井にラジウム鉱石のパウダーの壁剤を塗ることで、気化する臭いを上から抑えられることを偶然発見して特許を取得。この塗り壁剤を使うことで、臭いによる苦情は1件もありません」。夏果さんが開発した塗り壁剤は、消臭対策だけでなくラドン浴の効果もあることが慈恵医科大学の准教授による測定で証明され、菊地酵素は環境省が推進しているチーム 新・湯治の会員である欧州ラドン温泉療法研究会に加入しています。「酵素風呂の業界は伸びているから、個人のお店は何か特化したものが必要。そこで開業支援したお客様にはセミナーで勉強していただき、酵素風呂+ラドン浴を強みにしてほしい」と秀禎さんは考えているそう。

菊地酵素では、開業したら終わりではなく、酵素の品質管理をはじめ、販促やお客様対応のアドバイスを行い、定期的なブラッシュアップセミナーを開催。「例えば、開店後なかなか売上げが立たないお店があったら、その酵素原資を買い取って、別の新規オープンのお店の原資の一部に回したり、セミナーの講師として同行してもらったり、できる限りの支援をしています」。支援したお店にずっと続けてもらうため、長くサポートしていきたいと秀禎さんは言います。「菊地酵素で開業支援してもらえてよかったと喜ばれるのが一番嬉しいですね」。今後はペットが入れる酵素風呂の新規事業も考えているそうです。



酵素風呂は毎日の手入れが重要。水と米ぬかを注ぎ足し、浴槽の底からスコップで全部かき出して空気に触れさせる。お客様が入浴した後も空気を送り込んで、酵素に呼吸させてあげることで安定的に発熱するという。



合同会社 菊地酵素 | 〔酵素ラボ 祖師ヶ谷大蔵店〕
千歳台2-37-8 篠田ハイツ1階
TEL : 03-5490-0033 <https://kikuchikouso.net/>

